

第2回目の推進会議について

すえきしょうがりのことさ
ほかの委員にもわかってもらい
ながら会議をすすめていく
ことですえきのみんなもして
いくことにつながらるし、ほかの委員も
わかったのかくにんがひょうです。
また会議をしてる委員としても
またがりにわかっていけるのじやない
のかとも思います。

えいごもききなれないうことはいい
もそのいみもわがかないままにした
えいごでいうのはほんつなところもある
のです。つかってある委員だけが
わかってせんたりにわがなければ
どうしてきはいりよがしていい
とゆうことになるのかとも思います。
ぎちようもはいつようしていくべきです。
またがりのみんなをしていくことも
ひょうです。

わたしはひとつひとつりがりできているが
なくにんをしてください。
えいごなればおたしがまいていられる。

きほん法^{ほう} は 当事者^{とうじしや}主体^{しゆたい}
自己^{じこ}選択^{せんたく} 自己^{じこ}けつてい は
いままでも いまも けんりとして
ほしょう されて なり ない 入所施設^{にゅうじょしせつ}に
とじこめ 引れて いる。 これから ちやうなことは
ちいさでの ちやうだい てきせつな 福祉^{ふくし}
サービス が うけ 引れる 法律^{ほつりつ}が ちやうです。
きほん法^{ほう} が できて 40年間 仲間たち は
つぎつぎに 入所施設^{にゅうじょしせつ} に とじこめ 引れた。
まず だいいちに この さべつ を やめる こと
です。

2010年^{ねん} 1月19日^{にち} (火)

ヒョウケアースト^{ひょうけあーすと} 野田^{のた} 海道^{かいどう}

土本^{つちもと} 秋夫^{あきお}

だ^二第^一回
す^二推^進
か^二会^議にむけて

なが 奈 自 礼 幌 こんどは兵庫でも
なが か^二こと^一 ぎやくた^二い^一さされて^二いた
神 間 か^二こと^一がわかった
なが か^二こと^一 ぎやくた^二い^一さうけてもだれにも
い^二えなく^一 ぎやくた^二い^一さうけつ^二けてまた
なが か^二こと^一ほ^二と^一がされて^二いた
ぎやくた^二い^一さされてもい^二えなく^一た
こと なが 奈 自 大 橋 製 作 所 でもなく分れたこと
ま市^二りの^一つた^二ち^一にい^二えなく^一た 自^二分^一た^二ち^一の^二こと^一を
し^二り^一る^二学^一校^二の^一先生^二が^一き^二き^一め^二れ^一てなく分
れた^二こと^一がわかった。それまではい^二えなく
自^二分^一た^二ち^一で^二だ^一ま^二つ^一て^二いた^一こと^一もあ^二ら^一り
してなく分^二れ^一つ^二け^一るとい^二えなく^一なる
なが か^二こと^一し^二ら^一ず^二に^一いた^二15^一年^二30^一年^二も
ほ^二と^一がされて^二いた。自^二分^一た^二ち^一はぎやくた^二い^一
ほ^二と^一がされ^二せ^一ま^二い^一と^二こ^一ろ^二に^一ま^二い^一け^二が^一れ^二
施^二設^一でもい^二い^一か^二げ^一ん^二な^一こと^一もや^二つ^一て^二い^一る
い^二く^一が^二や^一かん^二の^一職^二員^一が^二る^一が^二ら^一う^二が
もと^二に^一あ^二る^一入^二所^一施^二設^一の^二もの^一が
なくし^二め^一れ^二め^一れの^二こん^一なん^二さ^一が^二あ^一ら^二え^一て
い^二る^一こと^一を^二し^一り^二す^一い^二か^一でも^二ひ^一ょう^二で^一て^二ま^一せ^二
な 福 祉 サ ー ビ ス 支 援 が あ れ ば と い っ て

自分^{じぶん}たちはしょうが^{しょうが} 11し^しか^かで^である^{ある}前に^{まえ}
 1人の人^{ひと}間^{かん}として^{して}あ^あか^かえ^えと^と1111つ^つづ^づけ^け
 ている。ま^まね^ねりの^{りの}ズ^ズた^たさ^さも^もしょうが^{しょうが} 11し^しか^かで^であ^ある^る
 も^も1人の人^{ひと}間^{かん}として^{して}み^みて^てい^いく^くこと^{こと}だ^だと
 お^おも^もい^いま^ます。ぎ^ぎゃ^ゃく^くた^た 11し^しか^か 11し^しん^んが^が 11
 き^きほん^{ほん}て^てま^ま人^{ひと}木^きを^をう^うは^はあ^あれ^れつ^つづ^づけ^け
 11ま^まて^てい^いる。自分^{じぶん}たちは
 なん^{なん}の^のた^ため^めに^にズ^ズとして^{して}い^いま^まて^てい^いる^るの^のが^が
 全^{ぜん}自^じに^に。自分^{じぶん}たちは^はし^しか^かな^な 11と^とこ^こで^で
 11ま^まも^もぎ^ぎゃ^ゃく^くた^た 11し^しか^か 11し^しん^んが^が 11ま^ま
 う^うけ^けつ^つづ^づけ^けて^てい^いる。
 自分^{じぶん}たちは^は11つ^つま^まで^でな^なま^まね^ね11し^しを^を
 し^しな^なけ^けれ^れば^ばな^なが^がな^な 11の^のが^が。
 もう^{もう}や^やだ^だ神^{かみ}間^また^たち^ちの^のこ^こと^とを^をみ^みると
 1111た^た 11で^です。

2010年^{ねん} 1月^が 2日^{にち} (木^{もく})

ヒーローのアーティスト 北^{ほく}海^{かい}道^{どう}

土^{つち}本^{もと}秋^{あき}夫^お



毎日新聞 1月21日

【第3種郵便物認可】

兵庫のパン工場

障害の従業員15年暴行

容疑の専務 書類送検 熱い皿に腕押しつけ

知的障害がある男性従業員(35)の腕を、熱せられた製パン皿に押しつけ、やけどを負わせたとして、兵庫県警三木署は同県三木市のパン製造会社の専務(41)を傷害容疑で神戸地検に書類送検したことが捜査関係者への取材で分かった。書類送検は今年13日付で、同署の聴取に対して専務は「殴るなどしたのには指導のつもりだった」と釈明したという。

同社関係者によると、専務は日常的に男性に殴るなどしており、そうした状態が約15年間続いたという。男性は毎日新聞の取材に対し「殴られるのが怖くて言い出せなかった」と話している。捜査関係者によると、専務の書類送検の容疑は08年8月ごろ、男性が仕事に集中しないことなどに立腹し、パンを焼く際に使う、熱した鉄製の皿に男性

の腕を押しつけるなどし、やけどを負わせたとしている。男性の腕には現在もやけどの跡が数カ所残っている。同社関係者らによると、男性は92年に入社。中度の知的障害のため、仕事に集中しにくく、専務は入社半年後ごろから殴るなどし始めた。「こんなこともできないのか」などと言いつつ、従業員らが専務に注意しても聞き入れなかったという。

男性は昨年、退職。その後の同6月、同社関係者とともに、同署に被害届を出した。同社は従業員約30人で、給食用のパンを納入するなどしている。現在、他に障害を持った従業員はいないという。

専務は毎日新聞の取材に対し、日常的に頭を殴るなどしたことを認めたらうで、「工場内はやけどをしやすいため、注意するつもり

行爲だった。今回の男性のやけどにはかわかっていない」と説明している。【村正】

ちてきしょうがいしやしせつ みずほがくえん かいぜんほうこくしよ けん ていしゆつ
知的障害者施設：瑞穂学園が改善報告書を件に提出

やかん ぞういん せんもんか
夜間の増員など／専門家

「どこでも起こり得る問題」と警鐘

こうせいろうどうしやうれい はん にゆうしよしや しよぐう ふくおかけん ぶんしよし
厚生労働省令に反した入所者の処遇などで福岡県から文書指
導を受けた同県赤村の知的障害者更生施設「瑞穂学園」が、20日
までに県に対し夜間の職員を増員するなどの改善報告書を提出し
た。県障害者福祉課は今後、内容を精査し改善状況を確認する。
どうがくえん めぐ しつ ていいん だんじよべつ にんいか さだめ
同学園を巡っては▽1室の定員を男女別に4人以下と定めた省
令に反し、男女約10人を同室で生活させていた▽女性入所者が
いしきふめい かくにん びやういんはんそう やく じかんご
意識不明であることを確認しながら、病院搬送が約5時間後だった
(後に死亡)▽病院から入所者に処方された薬の一部を焼却
処分していた――ことが、毎日新聞の取材などで判明。県は昨年1
1月、施設の立ち入り調査に入った。

けつか くすり はいき てきせつ かんり こうとう しどう
その結果、薬の廃棄については適切な管理を口頭で指導。さらに
しょうれいいはん きよしつたいぐう にゆうしよしや はんそうおく
省令違反の居室待遇と入所者の搬送遅れについては▽原因分析
こんご たいおう かんりしや せきにん やくわり めいかくか
と今後の対応▽管理者の責任と役割の明確化――など、8項目の改
ぜん ぶんしよ しどう
善を文書で指導していた。

これに対し、瑞穂学園は第三者を入れた虐待防止委員会を設置。
やかんたんとう しよくいん にん にん ふ きよしつ ていいんちようか
夜間担当の職員を3人から4人に増やすほか、居室の定員超過を
かいしやう せきがいせん つ にゆうしよしや てんらく がいしゆつ
解消し、ベッドに赤外線センサーを付けて入所者の転落や外出な
どに職員室で気づくようにする。また、入所者の病状などに応じ
たいおう しよくいん かんごし しせつせきにんしや れんらくたいせい
た対応マニュアルと、職員から看護師、施設責任者への連絡体制の
せいび ほうこく
整備などを報告した。

けん かいぜん はんだん ばあい かんけいしちようそん ないよう
県はこれによって改善されると判断した場合、関係市町村に内容
つうち ほうこくしよどお かいぜん おこな た い ちようき
を通知し、報告書通りの改善が行われているか、立ち入り調査など
かくにん ほうこくないよう ふじゆうぶん ばあい さいほうこく もと
で確認する。報告内容が不十分な場合は再報告を求めるとしている。

しょうがいしやしせつしゆざいはん
【障害者施設取材班】

今回、瑞穂学園で明らかになった入所者の居室環境や健康管理の問題は、耳目を集めやすい身体的虐待などとは質の異なる問題だ。が、個人の資質による部分が大きい虐待に比べ、施設の運営・管理にかかわる事案だけに、より根深い問題とも言える。背景には、多くの知的障害者施設が抱える、職員不足と入所者の高齢化という問題がある。

瑞穂学園では入所者約60人に対して夜間勤務は3人だった。一方で、入所者の高齢化に伴ってトイレ介助などが必要な人が増え、職員の負担は増大。目が届きやすいように重度障害者らを1室に集め、室内に簡易トイレを置くなどの対応をしていた。意識不明者の搬送遅れは、1人しかいない看護師と職員の連絡態勢などに不備があったとされ、処方薬のずさんな扱いは管理の不備を指摘された。

こうした状況について、障害者問題に詳しい専門家は「障害者更生施設が高齢者施設も兼ねる現状となり、職員の不足や疲弊が広がっていることも事実。それが入所者の待遇にかかわる問題を生んでいる面がある。今回のようなケースは全国どこで起きてもおかしくない」と話す。県も同じ危機感から、県内に184ある障害者施設すべてに、省令などで定めた生活基準の順守や虐待防止に向けた体制整備などを、改めて文書で通知した。

折しも政府は13日、障害者自身や家族も参加して障害者行政を見直す「障がい者制度改革推進本部」(本部長・鳩山由紀夫首相)の初会合を開いた。検討項目の中には、不当な扱いや虐待について施設職員に通報を義務付け、通報者の不当な解雇などを禁じた「障害者虐待防止法」の制定も含まれる。外からは見えにくい、施設入所者の「生活の質」を守るため、実効性のある制度の構築が求められている。【反田昌平】

兵庫のパン工場

しょうがい じゆうぎよういん ねんぼうこう ようぎ せんむ しよるいそうけん
障害の従業員を15年暴行 容疑の専務を書類送検

◇熱い皿に腕押しつけ

ちてきしょうがい だんせいじゆうぎよういん うで ねつ せい さら お
知的障害がある男性従業員(35)の腕を、熱せられた製パン皿に押し
つけ、やけどを負わせたとして、ひょうごけんけいみきしよ どうけんみきし せいぞうがいしや
兵庫県警三木署は同県三木市のパン製造会社
の専務(41)を傷害容疑で神戸地検に書類送検したことが捜査関係者への
しゆざい わ しよるいそうけん こんげつ にちづけ どうしよ ちようしゆ たい せんむ
取材で分かった。書類送検は今年13日付で、同署の聴取に対して専務は
「殴るなどしたのは指導のつもりだった」と釈明したという。

どうしやかんけいしや せんむ にちじようてき だんせい なぐ
同社関係者によると、専務は日常的に男性に殴るなどしており、そうした
じようたい やく ねんかんつづ だんせい まいにちしんぶん しゆざい たい なぐ
状態が約15年間続いたという。男性は毎日新聞の取材に対し「殴られる
のが怖くて言い出せなかった」と話している。

そうさかんけいしや せんむ しよるいそうけん ようぎ ねん がつ だんせい しごと
捜査関係者によると、専務の書類送検の容疑は08年8月ごろ、男性が仕事
しゆうちゆう りつぶく や さい つか ねつ てつせい さら だんせい
に集中しないことなどに立腹し、パンを焼く際に使う、熱した鉄製の皿に男性
うで お しよのこ
の腕を押しつけるなどし、やけどを負わせたとしている。男性の腕には現在もやけ
どの跡が数カ所残っている。

どうしやかんけいしや だんせい ねん にゆうしや ちゆうど ちてきしょうがい
同社関係者らによると男性は92年に入社。中程度の知的障害のため、
しごと しゆうちゆう せんむ にゆうしやはんとしご なぐ はじ
仕事に集中しにくく、専務は入社半年後ごろから殴るなどし始めた。「こん
なこともできないのか」などと言い、じゆうぎよういん せんむ ちゆうい きい
従業員らが専務に注意しても聞き入れな
かったという。

だんせい さくねん たいしよく どう がつ どうしやかんけいしや どうしよ ひがいとどけ だ どうしや
男性は昨年、退職。同6月、同社関係者と同署に被害届を出した。同社
じゆうぎよういんやく にん きゆうしよくよう のうにゆう
は従業員約30人で、給食用のパンを納入するなどしている。

せんむ まいにちしんぶん しゆざい たい にちじようてき あたま なぐ みと
専務は毎日新聞の取材に対し、日常的に頭を殴るなどしたことを認めた
うで こうじようない ちゆうい こうい こんかい
うえで「工場内はやけどをしやすいため、注意するつもりでの行為だった。今回
だんせい せつめい ちらかみただし
の男性のやけどにはかかわっていない」と説明している。【村上正】